

平成26年度 事業報告

中落合あしたホーム

1. 事業概要

- (1) 設立年月日 平成24年4月1日
- (2) 事業種別 共同生活援助
- (3) 主たる対象者 知的障害
- (4) 名称および所在地
 - ① 名称 中落合あしたホーム
 - ② 所在地 東京都新宿区中落合1丁目14番37号
- (5) 事業所の規模
 - ① 敷地面積：180.84㎡（54.71坪）
 - ② 建築面積：117.99㎡（35.70坪） 居室7部屋 9.72㎡～（クローゼット含む）
 - ③ 建 物：軽量鉄骨2階建

2. 職員体制

(1) 職員構成

職務	勤務	人数
管理者	常勤	1
サービス管理責任者		
世話人	常勤	2
生活支援員	非常勤	1
調理員	アルバイト	2
合計		6

3. 利用状況

- 定員 7名（男性のみ）
- 入居者 7名（満床）
- 全日利用 1名
- 平日利用 6名（平日利用、週末実家）

(1) 性別、年齢別構成

年齢	20～	30～	40～	50～	60～	合計
人数	1	3	1	1	1	7

（最低年齢）23歳 （最高年齢）63歳 （平均年齢）34.8歳

(2) 障害の程度 (愛の手帳)

		愛の手帳					合計
		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	1級			1			1
	2級						
	3級以下				1		1
	なし		2	2	1		5
合計							7

(3) 障害程度区分 (受給者証の障害程度区分)

区分2	区分3	区分4	合計
1	4	2	7名

4. サービス内容

利用者への住居の提供及び、食事、入浴、排せつ、洗濯等の日常生活（家事を含む）の支援

金銭管理、体調管理

福祉サービス申請手続きの代行

余暇支援（移動支援、居宅介護の利用）

5. 行事实績

月	行事名	月	行事名
4	合同歓送迎会	10	ふれあいフェスタ センター祭
5	親の会総会・法人報告会 端午の節句（菖蒲湯）	11	親の会バザー
6		12	忘年会 大掃除兼クリスマス会 冬至（柚子湯）
7	たのしい集い	1	初詣 七草粥 鏡開き
8	流しそうめん みどり町会防災訓練	2	成人を祝う会・新年会
9	総合防災訓練（池袋防災館） お彼岸	3	一泊旅行

利用者と職員で、あした会や親の会の行事、利用者の通所先である作業所行事に積極的に参加した。

季節折々の行事をあしたホームで行い、季節感を利用者に提供した。また、町会の行事にも利用者、職員ともども昨年同様積極的に参加した。誕生会は利用者の誕生日ごとにホームでお祝いした。

移動支援を利用し、上記の防災訓練、花見の他、川越散策、地下鉄博物館、清澄庭園、野球観戦、浅草散策・花やしき、スカイツリー、カラオケ、六本木散策、熱川旅行などへの余暇支援を行った。

保護者会は毎月1回実施した。

6. 職員の健康管理（健康診断等）

年一回実施

7. 防災訓練

- | | |
|------------|-------|
| (1) 避難訓練 | 月 1 回 |
| (2) 総合防災訓練 | 1 回 |

8. 研修実績

- | | |
|----------------|-----|
| (1) 育成会研修 | 3 回 |
| (2) 社協主催研修・連絡会 | 3 回 |
| (3) 東京都主催 | 4 回 |
| (4) あした会主催 | 1 回 |
| (5) その他 | 2 回 |

9. 会議

- | | |
|----------------|-------|
| (1) 職員会議・ケース会議 | 毎週 |
| (2) 事業所連絡会議 | 2 4 回 |
| (3) 合同職員会議 | 1 2 回 |

10. 実習生・ボランティア等の受け入れ

新宿区に申し入れ、職員相互研修者の受け入れを初めて行った。

11. 総括

事業が 3 年目となり、当所よりの課題であった定員増加に力を入れ実現にこぎつけた。制度変更により、ケアホームからグループホームへと呼称が変わった。この変更に伴い、夜間支援体制の加算額が増加し、増収となった。

利用者の支援、行事の企画は例年通り行ない、利用者、保護者よりも好評を得た。

また、今年度は初めて一泊旅行を試みた。地域との関係、保護者との関係など良好な状態を継続し、1 年を終えることができた。

新規利用者が入居したことで当初は利用者に戸惑いも見られたが、すぐに慣れていった昨年に引き続き、あしたホームでの宿泊日数は今年度も増えていた。

保護者の高齢化ももちろんだが、利用者の高齢化という現実が差し迫っていることを感じ、後見制度の利用等、先を見据えて支援を今後も行っていきたい。

(1) 利用人数

7 名に入居定員を増加し、すぐに満床となった。

基本的には日中にあしたホームを利用し、週末は自宅に帰る利用者が多かったが、金曜日や日曜日にも宿泊する利用者が増加した。

連休中は殆どの利用者が実家に帰り、1名のみあしたホームを利用していた。

年末年始は原則自宅に帰る形をとった。

長期入院の利用者も1名あった。

重点目標であった利用定員の増加は上記のとおり、達成できた。

(2) 食事提供

夕食は調理員を雇い入れ、調理したものを提供した。

朝食はあしたホーム職員（夜勤職員）が用意し、提供した。

量などを調整し、理想体重に近づくよう心がけた。

誕生会では利用者のリクエストメニューに応え、それ以外の時にもどんなメニューが食べたいか利用者にも選考してもらった。

(3) 入浴

あしたホームでの入浴が基本となるが、新宿区が発行しているお風呂券を利用し、月に数回、近所の銭湯に入浴に行った。体の洗い方、拭き方なども支援した。

また、銭湯に行けない週はあしたホームの風呂に温泉暖簾をかけ、入浴剤を入れて温泉気分を楽しんでもらった。

(4) その他

利用者同士の関係を築く為に週一回、夕食後にお茶会（簡単なおやつと飲み物を取りながら話す会）を今年度も行った。司会の利用者が他の利用者に話しかけ、会話を楽しんでいた。

防災訓練は今年度も力を入れ、新規入居者が入るまではいつ行うか利用者に知らせず、突然始めることでより実践的に行う事ができた。利用者も緊急時の動きに慣れることができ、「おさない・かけない・しゃべらない・もどらない・ちかづかない」を覚えることができた。

新規利用者入居後は、避難訓練を行う旨利用者に伝え、その後行った。

ヒヤリハット、事故報告は今年度も服薬等の確認漏れが多く、更なる確認体制、管理方法の徹底を行なった。

他事業所との連携を深める為、地域法人協議会の専門部会（居住部会）に参加したり、都内グループホームの見学会に参加した。

新宿区の事業である、職員相互研修で受入と共に、職員を研修に送り出した。

また、厚木精華園に職員1名を、宿泊を伴う研修に送り出した。

それによって新たな視点での利用者の支援について学ぶことができた。